

最新統計

人口の推移

(単位:人)

市町名	平成17年 10月1日	平成21年 1月末	平成21年 2月末	平成21年 3月末
気仙沼市	66,423	64,716	66,423	64,394
本吉町	11,588	11,381	11,364	11,331
南三陸町	18,645	18,389	18,386	18,285
合計	96,656	94,486	94,428	94,010

世帯数の推移

(単位:世帯数)

市町名	平成17年 10月1日	平成21年 1月末	平成21年 2月末	平成21年 3月末
気仙沼市	22,183	23,114	23,109	23,057
本吉町	3,327	3,496	3,496	3,491
南三陸町	5,335	5,362	5,359	5,375
合計	30,845	31,969	31,964	31,892

気仙沼魚市場水揚げ実績 (数量:トン, 金額:千円)

漁業別	平成20年		前年同期比	
	数量	金額	数量	金額
鮪延縄	1,076	414,377	74	-88,207
鯉一本釣	-	-	-	-
秋刀魚受網	-	-	-	-
近海大目流網	76	15,851	44	8,607
旋網	-	-	-	-
定置網	5	9,217	-3	974
船凍鮪延縄	63	17,242	-80	-87,829
冷凍いか釣	-	-	-	-
曳網・抄網	63	17,242	1,241	29,875
搬入	262	247,530	51	30,937
その他	21	13,010	-23	-10,321
合計	4,892	869,993	1,304	-115,964

4月水揚げは、減船の影響により前年比金額13%減となった。

「あおぞら給食連絡会」が 地産地消活動で表彰を受ける

(地方振興事務所地方振興部商工・振興班)

本吉町の野菜生産者組織「本吉町学校給食地域食材提供連絡協議会」(木村高雄会長, 通称:あおぞら給食連絡会)が、平成20年度東北農政局地産



表彰状伝達式の様子

地産地消優良活動表彰において農政局長賞を受賞し、3月17日(火)に本吉町で表彰状伝達式が

行われました。

同協議会は平成14年に発足し、55名の会員が栽培するほうれん草や小松菜などを町内や近隣市町の給食センターに供給しているほか、幼稚園児や児童・生徒の野菜収穫体験を行うなど、地域との交流を

盛んに図っています。

伝達式では東北農政局・美濃田恵一農産課長から「協議会の活動は地産地消の優良事例として他に示せる」と讃えられ、木村会長は「これからも安全・安心な食材を提供し、子供たちの野菜嫌いをなくしていきたい」と意気込みを語りました。同協議会は「第一回食材王国みやぎ推進優良活動団体」受賞に続き、地産地消活動表彰でダブル受賞を達成しました。

米粉研修会の開催

(地方振興事務所農林振興部班)

農業者、食品加工業者、学校給食関係者等53名の参加のもと、米粉の生産利用推進を目的として平成21年3月5日(木)に気仙沼合同庁舎大会議室で研修会を開催しました。

研修会は、岩手県の農事組合法人原体ファームの及川代表理事組合長を講師として「米粉の生産・利用拡大による加工販売事業の展開」について講演をいただきました。

併せて、米粉や米粉パンの試食、米粉製粉機のパネル展示や、関係機関団体から「米粉をめぐる情勢」（東北農政局）、「米粉の活用事例」（南三陸農業協同組合）について話題提供いただきました。気仙沼・



米粉研修会の様子

本吉地域では米粉の研修会は初めての開催で参加者の感想は良好でした。

米粉は小麦粉と比較する

と価格は高いですが地産地消の取組のもと利用拡大が期待されます。

「南三陸産業振興審議会農林部会」 が開催される

(地方振興事務所農林振興部林業振興班)

地域の農林業の振興を目的として設置され、農林業従事者及び行政機関等の担当者が構成委員となっている南三陸町の農林部会(16名出席)において、



地域の農林業振興のための専門部会の様子

「間伐等促進法」等補助事業を活用した森林整備のため、間伐等の実施について県及び森林組合とで説明を

行いました。地球温暖化防止等の機能を十分に発揮させるため、間伐等森林整備事業の推進について普及PRすることができました。

「にいつき軽トラ市栽培講習会」での ムラサキシメジ & ハタケシメジの栽培普及

(地方振興事務所農林振興部林業振興班)

地域にあるパーキングにおいて定期的に行われている「にいつき軽トラ市」で地元産野菜等の出店者を対象(25名参加)に、販売品目の拡大を目的にムラサキシメジとハタケシメジの栽培方法等についての



「軽トラ市」出店者を対象とした
販売品目拡大講習会の様子

講習及び指導を行いました。

受講者の反応も良く講習会終了後、その場でムラサキシメジの菌床の購入申し込みがありました

また、ハタケシメジについては希望者には直接指導することになりました。

小学生や地元住民による

「大前見島外松林復元に向けた松の植栽」

(地方振興事務所農林振興部林業振興班)

大島地区振興協議会の主催で、(財)日本緑化センターの「子供の松原再生プロジェクト」により、松くい虫被害により消失した松林復元を目指し、小学生や地元住民80名による抵抗性松(500本)の植栽を



卒業記念となった抵抗性松の植栽の様子

行いました。

子供達には卒業記念となる記念植樹で、また、地元観光協会の協力

で暖かい“豚汁”と“おにぎり”の提供もあり、地域一体となった松林再生に向けた取り組みとなりました。

「森林あり方検討、地域材活用促進、 森林認証取得検討合同プロジェクト」の開催

(地方振興事務所農林振興部林業振興班)

地域林業の振興を図るため県、市町、森林組合の担当者(12名)による「間伐等森林整備の促進」及び「地域材の地産地消」、「森林認証制度」について、今年度の活動報告及び次年度に向けてのプロジェクト内容について検討、意見交換を行いました。

プロジェクトで共通の議題を検討することで各機関との連携を深めることができ「森林のあり方」、「地域

材活用」について次年度も引き続き検討することとなりました。



プロジェクトの活動報告及び検討会の様子

「南三陸地域農業経営セミナー」の開催

(本吉農業改良普及センター地域農業班)

平成21年2月26日、南三陸町内の「平成の森」を会場にして、農業担い手経営体の育成を目的とした「南三陸地域農業経営セミナー」を開催し、81名の参加がありました。内容は基調講演及び事例紹介2題です。

基調講演では、(株)キースタッフ代表取締役の鳥巢研二氏が、日本各地で展開している地域の食と農に関するビジネスを紹介し、成功の秘訣を語るとともに、積極的な事業展開に踏み出そうと訴えました。

事例紹介では、平成20年8月から気仙沼市の「にいつきパーキング」で軽トラ市に出店した吉田和広氏が発表し、直売の初心者だった出店者たちが知恵を



鳥巢研二氏の基調講演の様子

出し合い、消費者の方々に喜ばれる市となったことを語りました。また、日本一美味しい米づくり研究会会長の秋山善治郎氏からは、『農の匠』に認定された小野寺幸人さんを中心に、会員みんなで良食味米を生産しようと技術向上に取り組んだ結果、全員が食味値80以上の美味しい米を作ることができた、という活動事例が紹介されました。

セミナー参加者へのアンケート結果では、これを契機に新たな活動に取り組みたい、という意欲ある声が

多く寄せられ、成功を収めた催しとなりました。

「短茎小ぎく」の栽培研修会の開催

(本吉農業改良普及センター先進技術班)

平成21年4月17日、南三陸町歌津地区において、JA南三陸リアス小菊栽培研究会の小ぎく栽培研修会が開催され、農業改良普及センターが「短茎小ぎく」の栽培について指導を行いました。

短茎小ぎくは主に量販店などで販売される、パック花向けの草丈の短い小ぎくで、近年、加工花業者からの需要が高まっています。

研修会では「慣行栽培の倍の仕立て本数になるが、肥料の使い方がポイントになるのでは」、「定植時期



栽培研修会の様子

や品種の選定が重要ではないか」、「本格的に栽培する場合、加工業者が求めるロット数は何本か」等の質問が出て、活発

な意見交換が行われました。

今後、普及センターでは短茎小ぎくの試作展示ほを設置し、加工花業者との意見交換会を開催するなど、産地の強化に向けた支援を行っていく予定です。

気仙沼魚市場南側施設B棟完成

(地方振興事務所水産漁港部漁業調整班・漁港漁場班)

気仙沼魚市場南側施設のB棟(99m)が完成し、供用が開始されました。B棟建設は平成16年度から始まった同魚市場南側施設整備事業で平成19、20年度の2カ年をかけ、人工地盤建築工事と改築工事が行われました。B棟完成により、南側施設の完成部分は予定される全長413mのうち、平成18年度に既に完成しているA棟(124m)と併せて223mとなりました。B棟の幅は人工地盤(駐車場)側面の日除けひさしを含め、38.25mで高さは7mになります。屋上の駐車場は開放されていますが、荷さばき場などの本格的な利用は、カツオの水揚げが始まってからと

なります。

荷さばき場の柱の間隔を旧施設の8mから3倍となる24mとして、カツオ自動選別機の設置スペースを十分確保することにより、水揚げ作業の効率化、さらに作業中の安全性向上も見込んでいます。また、衛生面ではA棟



気仙沼魚市場B棟（南側から望む）

同様、天井面と側面に防鳥ネットを張り巡らし、鳥害対策を徹底するとともに、構内

を洗浄するための塩水噴水管は埋設し、トラックへの積み込み作業に支障がないように配慮してあります。

気仙沼魚市場は昨年、生鮮カツオの水揚げ額で史上最高の100億900万円（前年比40%増）を記録し、年間総水揚げ額の1/3を占めました。水揚げ作業の効率化や衛生管理を重視した施設完成により、同魚市場が目指す生鮮カツオ水揚げの13年連続日本一に向けて大きな強みになると期待されます。

富県みやぎグランプリ受賞

（地方振興事務所水産漁港部漁業調整班・漁港漁場班）

平成20年度から始まった「富県宮城グランプリ」表彰制度の富県宮城グランプリ団体部門において、気仙沼漁業協同組合が富県宮城グランプリを受賞しました。

この表彰制度は、「宮城の将来ビジョン」で掲げる「富県宮城の実現」に向けた機運醸成を図り、「富県共創！」の理念に基づき、県民・企業各層の主体的な取組を促進するため、「富県宮城の実現」に貢献がありました、企業、個人、団体の皆様を表彰する制度です。

受賞した気仙沼漁業協同組合は、水産資源の減少や燃油高騰等、水



表彰式（村井知事、伊藤副知事と一緒に）

産業を取り巻く厳しい状況の中で、地域経済の中核をなす魚市場の活性化に向け、水揚げ作業の効率化など漁船誘致のための取組を積極的に展開し、近年、水揚げ金額が大幅に増加するなど顕著な実績を残していることが、認められたものです。

まぐろ延縄漁船の減船の影響もあると思いますが、先の気仙沼魚市場南側施設B棟の完成もあり、今年もたくさんの魚が気仙沼魚市場に水揚げされ、県民の皆様にとどけられることを期待します。

今期のワカメ入札会が終了

（地方振興事務所水産漁港部漁業調整班・漁港漁場班）

管内における今期入札会は計11回開催され、最終入札会が平成21年4月29日（水）に行われました。管内における累計上場数量は、塩蔵ワカメで昨年比127%の2,777トン（全県3,436トン）、累計金額は昨年比80%の17億7,000万円（全県21億5,000



塩蔵ワカメの入札風景（市内入札会場にて）

万円）となり、上場数量は全県の81%、金額では82%を占めました。なお、全県的に昨年のような高騰は見られ

ず、漁期前に懸念された「昨年の高騰を受けた生産量の増大による単価下落」をよそに単価は5,465円～7,730円/10kgの範囲で堅調に推移しました。

また、メカブの出荷状況については、当管内における5月上旬までの累計数量で1,593トン（前年比166%）、累計金額は4億1,500万円（前年比197%）、単価は260円/kg（前年比118%）と高めとなっており、近年の健康志向に裏打ちされた需要の増大が伺えます。

「動物愛護授業」の開催

（気仙沼保健福祉事務所環境衛生部食品薬事班）

“動物愛護を通じた心の育成”という基本理念が掲げられている「宮城県動物愛護推進計画」が平成20年4月より実行されています。今回、その具体的な事

業のひとつとして、平成3月13日に気仙沼市立松岩小学校の4年生児童を対象とした動物愛護授業を開催しました。

この授業では、保健所の動物愛護担当職員が作成した自作映像「つながる命・大切な命」を上映しました。内容は、食物となる動物(家畜)の命と飼い主から見放されてしまったペットの現状を映像化したものです。上映後、児童たちから「他の命に支えられて自分たちは生きていることが分かった。」という感想や「捨てられた動物を救う方法はないのか。」といった意見が次々に出されました。

この授業を通して、児童たちは命の大切さを認識することにより、基本理念である“動物愛護を通じた心の育成”の一助になったのではないかと自負しています。今後も他の小学校等で同様の授業を行い、動物愛護精神の普及を図っていきたいと考えています。



県職員による動物愛護授業の様子

認知症地域資源マップの発行

(気仙沼保健福祉事務所地域保健福祉部成人・高齢班)

気仙沼保健福祉事務所では、認知症ケアサポート事業の一環として、気仙沼市の認知症の高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための地域づくりを支援するために、認知症地域資源マップ「地域でやさしく支える 認知症 気仙沼便利帳」を気仙沼市や地域の関係機関と共同で作成しました。

これは気仙沼市内の相談窓口や医療機関、安心して利用できる商店などのマップを、項目別に4コマ漫画も入れて分かりやすく説明しているもので、5月上旬に気仙沼市内の各戸に配布されました。

内容はこのほかに、認知症に関する正しい知識や、早期発見のチェック表などが掲載され、裏面には何かあったときのための連絡先を記載できるようになっており、この冊子を通して、地域の皆様には認知症を理解し、やさしく支えていける地域を目指していきつ

かけとしていただきたいと思います。



認知症地域資源マップ

「地域でやさしく支える 認知症 気仙沼便利帳」

【あとがき】

新年度に入って2カ月が過ぎようとしており、真夏日が発生するなど夏が着実に近づいて(その前に梅雨ですが・・・)います。

世界では新型インフルエンザの猛威が連日伝えられ、日本においても人から人への感染による急激な拡大が懸念されています。関西地区においては、人と人との接触を減少させるため、学校の休校や外出の自粛、イベントの中止などが報道されています。

過日、仙台に向かうためJR気仙沼線に乗っていた時、リュックサックを背負った十数名の団体が乗り込んできました。その団はホームにいた数人の人々と大変名残り惜しそうに別れを交わしていました。後日、この団体が南三陸の田束山で行われた遊歩道のウォーキングを楽しみながらツツジや地元食材を満喫するツアーの一行であったことを知りました。ちなみにホームにいた人々は地域のガイドの皆さんとのこと。

新型インフルエンザによる制限が一日でも早くなくなり、このツアーでの人と人との出会いのように、楽しく、深い思い出となる「ふれあい」となるよう祈る今日このごろです。